● 読書感想文コンクール　中学校の部 ●

入選

竹内　美佳子（たけうち　みかこ）　宮上中 １年生

作品名:「いしぶみ　広島二中一年生全滅の記録」を読んで
図　書:いしぶみ　広島二中一年生全滅の記録

私はこの本を読んで、とても悲しい気持ちになりました。それは、あの広島の原爆で私と同い年の少年がたくさん亡くなっているという事実を知ったからです。戦争のあった時代では、このような幼い命がたくさん失われていたのか、と思うとすごく悲しくなりました。また核兵器の恐ろしさもわかりました。

今の私達は、食料が十分にあり、寝たり、お風呂に入ったり、学校に行ったりすることがあたりまえになっています。しかしこの時代は食料もほとんどなく、今あたりまえのことがあたりまえでない時代でした。特に、中学一年生ですから、発育盛りなのに食料がほとんどなかったのは辛かったと思います。

さらに、警報が毎日でるような中で生活するのは、私だったら怖くて絶対に耐えられないだろうと思います。そんな中で生活していた人々は本当に辛かったと思うし、強いんだな、とも思いました。

そして、あの原爆が落とされ、広島二中の一年生が、無惨な最期をとげていってしまいました。その中でも私は、山下明治くんのことが印象に残っています。山下くんは、八月九日の明け方に亡くなりました。山下くんは亡くなるとき、弟、妹、おじいさんひとりひとりに別れの言葉を言ったそうです。そして死期がせまったとき、お母さんが、お母ちゃんもいっしょに行くからね、と言ったそうですが、山下くんは、あとからでいいよ、と言ったそうです。私は、まだ若いのに死ぬのは不安で怖いはずなのに、「死」に一人で立ち向かっていく山下くんはとても勇かんで家族思いでやさしく、強いな、と感じました。また、櫻美一郎くんは十一日の午前八時十分、お父さんに好きだった軍歌を歌ってもらい、それを聞きながら亡くなったそうです。なんと櫻美くんは八月六日が誕生日でした。誕生日を最悪のものにした原爆。私は核兵器をなくしたいと強く思いました。櫻美くんは広島二中一年生の最後の死亡者でした。原爆で亡くなった人のことを思うと涙が止まらなくなりました。

広島二中の一年生三百二十一人と四人の先生は原爆によって全滅してしまいまし

た。私が驚いたのは、広島に落とされた原爆は核爆弾のうちではきわめて幼稚なものであるということです。幼稚なものであっても広島にはじめて原爆が落ちたときには二十数万人の人たちが亡くなり、その後もたくさんの人が原爆症で苦しんでいるのです。もっと強力なものであればもっとたくさんの死者がでて、苦しむ人が増えるのです。しかもエスカレートする核兵器開発は、人類を、地球を死滅させるほどの保有量になっているそうです。私はこんなにも恐ろしい核兵器はあってはいけない、と強く思います。人を苦しめ、傷つける核兵器は絶対にあってはいけないと思います。そして、平和ということがいかに素晴らしく、大切なものなのかを実感しました。そして、犠牲になった尊い命を無駄にしないよう、平和を守り続けていかなければならないと思いました。幼い命が失われるような戦争がなくなり、世界中が平和になればいいなと、この本を読んで、強く感じました。